

## 第3回網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会議事録

1. 日 時 平成23年7月19日（火） 18:30～20:15
2. 会 場 エコーセンター2000 3階 視聴覚室
3. 出席者 田中座長、松井副座長、藤永委員、服部委員、和田委員、  
清水委員、菅野委員、小林委員、渡辺委員、中山委員、  
深川委員、我妻委員、加藤委員、河原委員（計14名）
4. 事務局 網走市：川田企画総務部長、嶋田企画総務部参事、日野主事  
大空町：山本総務課参事、福原主査

### 開 会

【事務局】皆さん、こんばんは。まだお一人お見えになっておりませんが、定刻になりましたので、ただ今より第3回懇談会を開催いたします。

本日の出席委員は14名です。4名の方がご都合により欠席されております。議事は田中座長の方から進めていただきますので、よろしくお願いいたします。

### 議 事

【座 長】 それでは、次第に沿って進めていきたいと思います。

最初に、懇談会の今後の進め方について、事務局から説明があります。

【事務局】 懇談会の今後の進め方について、ご説明いたします。

これまで2回、懇談会を開催させていただき、委員の皆様、それぞれのお立場から貴重なご意見をいただいているところですが、今回を含め、3回の懇談会でいただいたご意見を集約した中で、今月中に事務局で素案を取りまとめさせていただきたいと考えております。

この素案を基に、広く住民から意見を公募するパブリックコメントを8月に実施いたします。9月に両市町の議会へ説明するとともに所要の修正を行い、最終的には9月末までに成案として策定いたします。

策定後においても、懇談会のご意見をいただきながら、毎年見直しを行い、進行管理していくこととしておりますので、来年度以降の「新たな取組」や「現在の取組の見直し」については、10月に再度、懇談会を開催いたします。ここで、策定したビジョンの報告と併せまして、来年度以降の取組についてご意見を賜りたいと考えております。

さらに、来年度以降の懇談会については、4月と10月の年2回を基本に開催し、4月は新年度予算への反映状況や、それまでにいただいたご意見に対する対応状況など

を報告させていただき、10月は、翌年度に向けた取組についてご意見を賜りたいと考えております。

以上のような形で進めさせていただきたいと考えておりますので、本日は圏域の将来像、現状と課題、今年度の具体的取組の3点を中心に、ご意見をいただければと思います。

以上で、今後の進め方についてのご説明を終わります。よろしくお願いいたします。

**【座長】** ありがとうございます。

今、事務局から懇談会の今後の進め方について説明がありましたが、確認しておきたい事項等ありましたら、どうぞ。よろしいですか？

私の方から確認いたしますけれども、ビジョンを策定した後に、今年度の10月に懇談会を開催すると。そこで来年度以降の取組について意見を伺うと。来年度以降の懇談会は、4月と10月の年2回開催すると。ここでは、予算が決定される前に開催するということですね。

いかがでしょうか？なければ、2番のビジョンの修正箇所及び配付資料について説明させていただきます。

**【事務局】** 事前にお送りしておりますビジョンのたたき台をご覧くださいと思います。

5ページの「産業別就業人口の推移」の大空町関係の言い回しの部分を記載のとおり修正しております。

9ページの「農業の推移」で、農業産出額の表を追加しました。

10ページ「漁業の推移」では、表中の18年と21年の比較を削除しまして、説明文を全面的に変更しました。

11ページの「観光の推移」は、当初掲載しておりませんでした。観光は農業、漁業と並ぶ基幹産業の一つであることから、新たに掲載することといたしました。

12ページから17ページにわたりまして、医療をはじめ、11の分野について「圏域の現状と課題」を新たに掲載いたしました。記載内容については、おおむね具体的取組に対応するような形で記載しております。

17ページ「圏域の将来像」で追加した部分は、本圏域は水産物と農産物が豊富で、日本の食糧基地、北海道の中でも重要な位置を占めていること。続いて、網走国定公園に位置し、阿寒国立公園、世界自然遺産の知床に隣接し、流氷が接岸するなど、豊かな自然に囲まれた地域であること。

観光が基幹産業の一つであることから、観光施設のほかモヨロ貝塚などの重要な文化施設もあること。さらにスポーツや文化活動の合宿が盛んな地域で、交流人口が多いこと。こういった圏域の資産的要素を示したうえで、最後の段落になりますが「こうした状況を踏まえ、先人から受け継いだ豊かな自然環境や歴史文化資産を再認識するとともに、圏域固有の財産として大いに活用し、時代を担う子どもたちに誇りを持って引き継ぐことができるよう、圏域住民がゆとりと潤いを実感し、安心して子育てができる環境を整え、子どもや若者が夢と誇りを持ってこの地域に住み続けたいと思えるような、魅力と活気に満ちた圏域を構築しようとするものです。」ということで、将来像の夢を語る部分という気持ちで追加しました。

続きまして、44ページの「共生ビジョン事業一覧」の中段にあります「ふれあい活動センター管理事業」が、事業を取り違えておりました、「こども発達支援センター管理運営事業」に差し替えさせていただきました。これに対応する、29ページの「14 福祉サービス広域化事業」の事業概要と事業費、役割分担を、それぞれ修正しております。

最後になりますが、50ページ以降についてですが、懇談会でいただいたご意見は、直ぐにはビジョンに反映できないものもございますので、参考資料として掲載し、後々のために記録として残しておこうという意味で掲載しようとするものです。以上が、ビジョンの主な修正箇所です。

続きまして、配付資料について、ご説明いたします。

事前にお送りしております資料1「第2回懇談会における意見要旨及び対応等について」は、現時点で対応が決まっているものについてのみ、右側の欄に記載させていただいております。

発言内容については、今ご説明いたしましたように、参考資料としてビジョンに掲載いたしますので、趣旨と違うようなところがございましたら、後ほどお知らせいただきたいと思っております。

続きまして、本日お配りしております資料2「欠席委員からの意見等について」は、本日欠席の委員から記載のとおりご意見が寄せられております。以上で、事務局からのご説明を終わります。

**【座長】** ありがとうございます。

ただ今、先回の懇談会の各委員さん方からのご意見を踏まえたうえで、「もう少し膨らました方が良いのではないか」「もう少し具体的に」というようなご意見もございましたので、これに基づきまして修正・加筆がされているところをご説明いただきました。中身については、事前に送付されておりますので、ご覧になっているかと思っております。そのうえで、いかがでしょうか？特に「自分の意見が入っていない」とか「落ちているんじゃないか」といったことがありましたら、遠慮なくどうぞ。

【委員】1回目の懇談会を欠席しているのですが、恐らくその時の意見ではないかと思いますが、52ページの福祉の分野で「两市町間を移動する利用者の送迎を、两市町のボランティアが情報を共有し、連携が図れるのではないか」についてですが、私共の大空町社会福祉協議会は有償で移送サービスをやっているものですから。送りも迎えも含めて利用者から料金をいただいていますので、それを代わりに、許可を受けていない車にというのはできないんですけども。

【委員】それはそういう意味じゃないんです。単なるボランティアの人たちがボランティアで、移動したい人をお手伝いする場合に、あるいは大空町から網走に来る時に、連携し合ったらいいんじゃないかという趣旨です。

【委員】そうですか。分かりました。

【座長】よろしいですか？他にいかがでしょうか？なければ、後ほどまたご意見を伺うということで、先に進みたいと思います。

圏域の現状と課題、具体的取組についてですが、前回は環境の生活環境・衛生環境の向上のところまでは、皆さんと検討を進めてきたところでございます。今日、予定されているのは防災からということになります。ただ、前回の生活機能の強化に係る中で、医療関係がありまして、一応出席委員と意見を交わしたところですが、両院長が欠席されていて、専門家がない中で進めた訳ですけども、専門家から一言ありましたら、お願いいたします。

【委員】20ページに書かれていることは、平成18年に今の新しい網走厚生病院ができた訳ですが、その建設に対してのものです。75億円の予算で作った時に、この斜網地区に20%の建設費の補助をいただきたいということで作りました。その時に、網走市が14億円で、斜里町を含め、東藻琴村、女満別町などの周辺町村が1億円ということで、15億円いただいて作ったんですが、ここに書かれている金額は、その時からの20年間の分割払いの分割費が書かれています。これは以前から続いていて、これから20年間同じ金額が出ていくということです。

これは建設費の補助ということで、北見日赤は今、問題になっていますけれど、北見日赤は、150億円の予算で、北見市から40%の補助をいただくということです。市立病院の役割のために公的病院を建設する時は、20%~40%の補助金をいただくというのが、全国的な水準なんです。私共は、院長の立場から言えば、20%しかいただかなかったんですが、北見市の場合は、40%で60億円を補助するということですけども。

斜里町ですと年間、たぶん2~3億円の運営費を一般会計から補助金が出ていますね。紋別市ですと5億円とか補助金を出すぐらい、地方の病院は赤字で成り立っていて、地域の医療を守れないということなんです。網走厚生病院の場合は、補助金は一切いただいいてなくて。後で小児科とか（への補助が）出てきますが、それは今年か

ら初めて始まったもので、国からの補助金が市を通して出てくるということで。今まで網走市からの運営費補助というのは一切いただいていなくて、この建設費補助だけはいただいたんですね。

前回の議事録を読ませていただくと、田中先生の方から「住民から医療に対するいろんな要望を、どうやって伝える方法はないのだろうか？」というご意見がありましたけれども、網走市は、ハッキリ言うと、医師会にもあまり意見を持ってこないんですよ。救急医療とか病院とか（に対しての）、住民の方からの不満なり要望とかは、市とか保健所とか、あるいは網走医師会にも届いているんですが、変な言い方ですけど、結局、網走市はお金を出していないから口も出さないという考えなんですね。

逆に市立病院になると、極端なことを言うと、患者さん方が医師や看護師に向かって「あんた達の給料は、俺らの税金で賄っているんだ。だから言うとおりにやれ」というような言い方をされて。例えば稚内市立病院とか留萌市立病院とかは、それが激しくて医師の引き上げが始まるというくらいなんですね。

網走市の場合は、建設費の補助はいただいているんですが、運営費の補助を出していないということもあって、医師会に対しても網走厚生病院に対しても、市からの直接の要望は殆んどない。

今、私たちの病院はご意見箱というのをを出していて、そこから直接受診者の患者さんたちの要望を受け入れて、直せるところは直していこうということでやっているんですが。保健所とか網走市には、たぶん患者さんからの要望・不満が結構きていると思うんですが、直接こちらに言ってこないんですね。今、そういう関係に自治体と医療機関があるということがあるんです。私たちは、それが聞きたいんです。それで、救急医療フォーラムを開いた時も、「医療機関だけが頑張ってもダメ。自治体が頑張ってもダメ。住民が要望だけ出してもダメで、それが一体とならないと、救急医療なり日常の医療は継続的に安定しないし、逆に向上させることもできない」と思うんですよ。そういう意味で、運営補助が欲しいという話でなくて、お互いに仕切りがある中で、地域の医療が運営されているということが、実際に今起こっています。

【座長】ありがとうございました。

今の指摘の点は重要なところで、これは医療分野だけではなくて、どの分野でも、最近特に言われているんですけども、情報発信とか情報の開示とか言われるんですけども、もっと大事なことは情報の対称性と言いますか、情報がちゃんと理解されている、話し合われるということがもの凄く重要なことで、情報だけ発信していたらそれで良いというものじゃなくて。

斜里町の国保病院が大変な状況になったというのは、実は町の理事者とお医者さんたちと、やっぱり意思の疎通が非常に良くなって、双方が考えが伝わっていなかったことが後になって分かった。そんなバカな話ないんじゃないかと思ったんですけど。

そういうことのないような、情報の位置付けというのは今後重要なんじゃないかと、今藤永先生のお話を伺って。重要なところですよ。これに対して事務局から何かありますか？「ご意見として伺っておく」ということです。

【委員】先日の委員さんからの発言で、東藻琴の場合は何か問題があるという発言があったのですが、救急医療に関しては、大空町は網走市との間で救急体制ができておりまして、東藻琴・女満別の患者さんは美幌町に送ることなく、女満別中央病院か、あるいは網走は厚生病院が主ですが、ご協力をいただいて、救急体制は整っております。普段の平日の夜間医療に関しては、美幌の医師会に所属しておりますので、そこで当番病院が決められております。

【委員】申し訳ないんですけど、その取り決めはないんですよ。「お願い」というだけであって、制度としてないんです。制度としてなっていないので、各病院がいろんなトラブルを起こして、不満となって表に出てきているんですね。そのせいで8月目途に作ろうということで、今動いているんですが。服部先生のお耳には、大空町からは「そういう体制になっているから」というお話がいつていると思うんです。先生はそのとおりやられているんですが、大空町としては網走地区の救急医療に関して全く手を出していないんです。

斜里町も、町長が私のところにきて「斜里町が今大変だから、救急をお願いします」と言って、挨拶して帰っただけ。多分、斜里には「網走厚生病院が全部引き受けるから大丈夫だ。安心なさい」と言っていると思うんですが、それは制度として成り立たないの、そこでいろんなトラブルが起きてくるんですね。そういう形の中で、救急医療というのはあくまでも行政が責任を持ってやると、法的にも定められているんだけど、行政が制度を作っていない中で、医療機関は断る訳にいかないの、救急は診るんですけども、診る中でいろんなトラブルが起きた時に、行政として制度がないから、解決しようがないんですね。その制度をきちっと作ってもらいたいということで、一昨年からずっと動いて、斜網地区の市町が集まって、8月を目途にきちっとした制度を作る。責任がどこにあるかも含めて、行政が責任を持って、そのうえで医療機関に救急をお願いしますという体制にする。

【座長】ありがとうございました。他にありませんか？よろしいですか？

それでは、28ページの防災対策活動の促進です。今回、特に大震災等がありまして、防災に対する対応は、それぞれ委員の皆さんも非常に具体的にイメージできるのではないかと思いますけども。とにかく地域住民の命を損なうことなく対処する。そういう体制をとっていく第一段階。今後更に必要なものがあれば、事業として挙げていくということで。その時の基礎となるのが今回の皆さんのご意見ということになるかと思えます。今回ご意見として承ったことを、この予定されている中に組み込むというのは厳しいのかもしれませんが、5年の間で更に充実させていくという

ことですので。何か、特にご意見等がございましたら、いかがでしょうか？

これに関しては、43ページに防災対策活動の推進ということで、網走市と大空町のそれぞれ3つずつ事業が示されております。今年度はこういった事業が予定されているということです。

なければ、6番の福祉に移ります。福祉サービスの向上ですが、資料が44ページです。児童・障がい者・高齢者に対するサービスの充実です。はい、どうぞ。

【委員】福祉サービスの向上という部分で、包括的な事業名は14番の福祉サービスの広域化事業になりまして、その中身は事業概要に3つの段落がありまして、子育て支援の関係、次が障がい者福祉の関係、高齢者福祉があります。44ページの一覧表の中では、子育て支援の関係が網走市では2つ、大空町は5つ。障がい児福祉の関係は子育て支援に重なる部分もありますけれど、子ども発達支援センターの関係で網走市が1つ。高齢者福祉の関係は網走が2つということです。この一覧表と29ページの事業概要の中にはそれぞれ3つが記載されておりますけれども、次の欄の効果のところ、高齢者福祉についての表現がないんですね。これは表現上のことですから大きなことではないかもしれませんが、ここに子育てや障がい児福祉と一緒に、高齢者福祉に関することも記載しておいた方が良いんじゃないかと思います。

いずれにしても今回、福祉分野の関係で参加しているのは私共と大空町社会福祉協議会ですが、網走市社会福祉協議会としては、ここに載っている事業について殆んど直接的な関与はしていませんが、これらのことは少子高齢化が更に進んでいく状況がありますので、安心してこの地域にこれからも住み続けていくためには、非常に大事なことだと思いますので、これを両方の町で協力して連携していくということは、私共としては全く異存はありませんので、これで良いんじゃないかと思います。

ただ、この計画の目的というのは、一番最初に冒頭でもお話がありましたけれども、定住を維持し増進していくと。そのためにどんな生活基盤を確保して福祉サービスを提供していくのかと。何が必要なのかということで、そう検討して必要と思われる事業をこの計画に載せて実施していくということです。この福祉サービスの向上に関わるものとして、網走市と大空町が連携して分担して実施をしていく必要のあるものが、今ここにある事業だけで良いのかどうかということになると思います。

ここの黒枠の方に、協定書で定めている取組内容がありますけれど、この範囲を超えるものは協定の変更が必要になってくるということでしょうけど、この範囲の中で言えば、ここにあるような子育て支援に関する事業は、これで良いんじゃないかと思えますけれども、大人も含めた障がい者や高齢者の人に対する福祉サービスの相互利用ですとか、ネットワークの構築、そういうことに従事する人の育成については、事業概要のところには文章として表現はされておりますけれども、具体的な事業としては、ボランティアの研修ですとか認知症サポーター養成講座ぐらいしかありませんの

で、もっと何かが必要ではないかという気がしています。それでももう少し網走市と大空町で具体的な内容について、検討していただければと思っております。

ただ、前にも説明がありましたように、23年度の事業は今回載せている事業で固まっているということですので、24年度以降に向けて早い時期に検討することが必要だと思っておりましたが、10月になったら、また来年度に向けて検討があるということですので、その時により具体的に検討ができればと思っております。以上です。

【座 長】ありがとうございました。今お話にもありましたように、23年度の事業については決まっている訳ですから、この中で何か充足すべきことがあればということで。次年度からは、当然これだけでは足りない訳ですから、これに更に付加するようなものをどんどん出していただく。そのためにご意見を頂戴する。来年は4月、10月の2回ですか。余計なことかもしれませんが、できれば両市町の関係者の皆さんが、検討の場といいますか、そういった委員会のようなものを作って、1年間を通して議論して、こういった場に出してくるというような仕組みがないと、なかなか全部を出すということにはできないんじゃないですか。突然資料を渡されて何日かで読んで、「さあどうぞ」と言っても、良いものはできないですね。今後はそういった方向でやっていきたいとの、先ほどの事務局からの趣旨だろうと思います。

それから事務局に言いますけれども、効果のところ、3つのカテゴリーであったものが、どうもその内の一つが、高齢者については効果のところが入っていない。これは是非入れていただきたい。

他はいかがでしょうか？

【委 員】意見は網走さんとほぼ同じなんですけれど、カテゴリーの違うものを一本にされると、後々整理がしづらと思うんです。今回はこれで了承しますけれども、やはり他所の計画を見ていると、子育て、障がい児、高齢者というのは、その事業じゃない事業の補助を受けてでも実施していく時に、一つにまとめてしまうと、整理がしづらくなるのではないかと思いますので、見た時に安心できるようなメニューにしていきたい。

【座 長】ありがとうございました。他にございますか？

それでは、ただ今ご指摘を受けたようなところを工夫して修正してください。

次に7番目の産業振興、ここは大変重要なところだろうと思います。これも協定が結ばれた中での取組内容です。あのところは、圏域経済の活性化と雇用の創出を図る。そのために圏域の資源を活用した新商品の創出とか販路拡大、こういったことの技術開発するための事業ということで事業内容があります。これに関しては45ページを参照しながら、いかがでしょうか？

あのところは圏域経済の活性化、そのことによって雇用を創り出そうということです。



実は私もこれに関わっているものですから、もう少しあればいいなと思っていますけれども、今年度はここに掲載された事業で。いかがでしょうか？

【副座長】私も個人的に印刷業ということで、この地域で商売をやらせていただいているんですけど、行政のメニューとしては、どうしても新規のこういうものに偏ってしまうんでしょうけれども、いわゆる既存の技術ですとか、既存の製品、これを何かの形でフォローできるような制度とといいますか。いわゆる地産地消ですとか、地元調達ですとか、そういったメニューを何か、将来的にこういうところに載せていければなということは、常日頃考えております。

【座長】ありがとうございました。次年度の検討会で、是非ご意見を検討していただきたいと思います。

あと他にいかがでしょうか？こういうふうに項目別に全部出されておりますけれども、他の項目と、産業振興と観光とか、そういったところとつながってなければ、あまり有効というか、効果が出ないんじゃないかと、そんな感じがしない訳でもないですが。そこら辺りも今後、委員の皆さんとの検討の中でもう少し(見直していきたい)。どうも形が整体的な形で、ダイナミズムが感じられない。もう少しダイナミズムのあるような中身に、次はしていくというのも、我々の役割ではないかと思えます。

他にいかがでしょうか？イのところの水産資源の確保も併せていかがでしょうか？よろしいですか？

それでは、次の、結びつきやネットワークの強化に係る具体的取組というところで、地域公共交通の維持・確保については47ページの生活交通路線維持対策事業、地域公共交通活性化・再生総合事業負担金、生活路線バス運行維持対策補助金の3つの事業があります。

【委員】結びつきやネットワークの強化ということで、地域公共交通の確保・維持ということで予算計上いただいておりますが、まず網走市の24,952千円と大空町の8,027千円は、いずれも昨年の実績ということであります。真ん中に書いてあります地域公共交通活性化・再生総合事業負担金5,000千円については、以前、国の地域公共交通活性化再生事業ということで、国から補助金が出ておりました。これについては調査事業も補助されるということで、昨年の3月に網走市も法定協議会を立ち上げたということになっております。しかしながら、例の事業仕分けによりまして、これについては、調査費用が補助されなくなったということで、この5,000千円は、網走市が独自に予算を計上したということだと思っております。

23年度の予算を見ますと、昨年実績よりも減額されているということでございまして、今年度につきましては、燃料も高騰しておりますので、大変厳しい状況になってきていると考えております。

第1回目の懇談会でもお話しさせていただいたとおり、赤字路線については全額補

助されているというものではございません。補助要綱の中に、1日の輸送量が15人以上150人未満、運行回数が3本以上というような補助要綱があります。この補助要件に合致しないものは国からの補助金を受けられないという形になっております。なお且つ平均乗車密度が5人に満たない部分については、1日の乗車人員を5人で除した人数・本数が、見なし運行回数とされます。例えば輸送量34人いたとします。運行回数が10回といたしますと、 $34人 \div 5人 = 6.8$ 回で、小数点以下の0.8回は切り捨てになります。運行回数は6回分だけが国からの補助が受けられるということになりますので、残りの4回は誰が負担するのかということですが、これを当社で負担しているということになります。

前回もお話いたしましたとおり、平成12年と14年に、貸切バス・路線バスが共に需給調整規制が撤廃されたということで、貸切バスは新規参入業者がどんどん入ってきております。それによりまして単価がどんどん下落をして、こういう赤字路線に補てんできなくなってきたという状況になっておりますので、当社では主に都市間バスの利益で、何とかそこを維持しているという形になっております。年々厳しい状況になってきておりますので、都市間バスについても、一昨年、高速料金が土日祝祭日上限千円ということで、昨年の6月28日から無料化、本年6月19日いっばいで廃止にはなりましたが、その影響を受けまして、都市間バスの輸送人員も減ってきているということで、なかなかもう維持できない状況になってきています。他の市町村のバス会社を調べますと、最近はその赤字分を自治体さんが補てんをいただいているというところが、どんどん増えてきております。

この度、新しい補助要綱が策定されました。なかなか国がきちっとしたものを出せなかったということもありますし、道の方もそれに沿った方針をなかなか作れなかったということもありまして、全てが遅れております。今までの補助要件の輸送量・輸送人員は、あまり変わりばえはなかったんですけども、今までは10月から9月末までの実績補助でしたけれども、23年10月からは事前内定方針ということになります。23年の10月からが24年度補助事業になりますが、これを算定するにあたっては、2年前の22年度事業のキロ単価を使う形になっておりますので、実際に運行したキロ単価と2年前のキロ単価では当然乖離があります。国土交通省に「この乖離の部分はどうなるのか？」と訪ねますと、「大幅に乖離があった場合には、補正を組む」という言い方をしていますが、「じゃ、いくら乖離があった場合に補正をしてくれるのか？10円なのか20円なのか？」とお話もしてありますけれども、その辺は具体的な回答は得られないということになります。今まで、「経常後収益が経常費用の20分の11に満たない部分は市町村が補てんすること」ということが、国と道の補助要件でございました。市町村が補てんしないと、国も道も補助しないということでしたが、今回、協調補助がなくなりました。20分の11に満たない部分は誰が補て

んしてもいいということでございます。一体誰が補てんしてくれるのか。実際の運行経費と内定金額に乖離があった場合、国から下りてくる20分の9の補助金にも乖離が生じて、結果的にその部分も事業者の負担になるということも考えられます。そういったことを考えた中で、益々この先は厳しいという状況だと言わざるを得ません。なお且つ補助路線については、9月末が事業年度でございますが、翌10月1日以降も引き続き運行することというふうに、またタガがはめられております。

昨年9月末日をもって湧網線が廃止になりましたが、あのような廃止の仕方になりますと、1年間どうしても補助金が得られないという形になりますので、生活路線を維持していくためには、相当厳しいと言わざるを得ません。当社も何とか維持をしてきた訳でございますけれども、もうこれ以上なかなかもてなくなってきたということで、7月6～7日に関係自治体さんを回らせていただいて、「この見なしの部分についても、網走市が中心となって考えていただきたい」ということで要請に回らせていただきました。

47ページに記載されておりますけれども、この金額では路線を維持していくということには、なかなかいかないということをご理解いただきたいと思います。ちなみに昨年の美幌線に限ってお話しさせていただきますと、国からの補助金が8,095千円、大空町と網走市から5,980千円、当社が負担している部分として7,280千円ということで、赤字を背負っています。対象の郊外線赤字分は全体で20,000千円以上の金額を当社が負担して運行している形になっておりますので、その点も含めて将来的に議論をしていただきたいと思いますと思っております。

16ページに新たに地域公共交通の分野ということで掲載していただいておりますけれども、ここに記載のとおり本当に自家用車に依存し過ぎているということで、年々利用者が減少し続けています。少子化ということもありますけれども、皆さんマイカーを持っているということで、送迎をするようになって、向陽なんかも渋滞が起きたりしています。このままでいくと、公共交通は将来的にどうなのかということも考えていかななくてはならないと思っております。環境問題、それから高齢者が事故を起こすというリスクもかなりありますので、この先20年、30年経った時に、公共交通と呼ばれるものは市内線の一部を除いて一切なくなるということも視野に入れなければならないのかなと思っております。

車に依存し過ぎていますので、点から点の移動のみとなりますので、街には人が歩かない、人がいない、活気がないといった繰り返しでございます。ラルズマートがなくなった後、特にそういう現象が顕著に見られているのかなと思っております。こうやってバスの本数も減ってきますので、本当に活気がないという感じです。ラルズがある時なんかは、バス時間がある時には、人がプラプラ歩いてたというふうに見えたんですが、今は本当にひどい状況になっています。まちづくりも含めて、住民啓発的なこ

ともやっていかなきゃダメなんじゃないのかなと思っていますので、先頭に立って、両市町の皆さんにはお願いしたいと思っています。

【座長】ありがとうございました。私も農大にいるものですから、学生たちの足がなくなってしまったらと思うと、ぞっとしながら話を伺ったところなんです。現実問題として、そういうことも可能性としては起こり得ると。どうすれば良いのかというと、今おっしゃったように、あらゆる分野というのがまちづくりという一つの大きな枠の中で有機的に積み上げてこない、ただ交通機関だけを工夫して、どんどん走らせても成り立たないものじゃないかと。人が揃わない、人が歩かない、人がいない、そういうところにお医者さんは来てくださらない。まちをどう活性化してつくっていくのか。私も実はラルズの跡地に関わっているものですから、特に悩ましいと思っています。逆にあれを悩ましいと思わないで、有効利活用できれば、ひょっとしたら起死回生のまちが再生できるのかなということも、今お話を伺いながら考えました。

【委員】ただ今、企業の方からのお話を聞いた訳ですけども、住民側からのことについて、ちょっとお話を申し上げたいと思います。企業の生活路線バスの補助金について云々ということではありません。私は東藻琴ですから、もう7年ぐらい前に美幌線が切られまして、その後バスはありません。生活路線バスがあるのは網走だけなんです。網走に1日往復しますと、2人が1ヵ月食べれるだけの米が買えるんです。バス賃はそれだけ高いんです。高等教育は殆んどが網走市なんです。南校か桂陽高校にきている訳なんですけども、家庭が負担する通学費は非常に生活に負担が大きい。そのような実態で、「定住しろ」と言うのは非常に厳しい現実になっています。もう一つは網走市が、冬のイベント、夏のイベント、1年中多くのイベントがされているんですけども、そこに見に行く路線（足）がないんです。ですから流動人口が増える訳がないんですね。今、東藻琴は高齢化率は約40%以上になっているでしょう。この人の買い物が網走市に来るか、美幌町に行くかということ、もはや40%以上が美幌町に行っていると思います。何故かと言うと、美幌町の方が近いからです。こういう実態をもっとね。今、「企業が大変だ」というお話を聞いて、私はそのとおりだと思います。もう一つは住民がそこに住むというのが、今回の主題ですのでね、直ぐ様そこをえぐっていかないと、本当に網走市を中心とした大空町との共存共栄ができないんじゃないかと、私は思いました。

【座長】ありがとうございました。私は、先ほどからお話がありましたが、これが次年度からの計画に有効に生きてこなければ意味がないと思っています。

地域公共交通を維持するということは、交流とか移住とかにつながってくるということで、非常に重要な部分であります。次の、地域内外の住民との交流・移住促進にしても、やはり「行きたい」というまちにならないと、なかなか移住も進まな

いだろうし、交流も足がないとかですとね。だいたい今は車を持っている人のイメージで進められていることが多いですね。そこら辺りも踏まえたうえで。だいたい日本中どこの地域のまちでも、そういう発想が殆んど変わりません。逆に言えば、皆さんが今怒りをもってお話されているようなことを、きっちり事業・枠組みとしてをつくれれば、私は自治体の参考になると思ってます。

次に、地域内外の住民との交流・移住促進につきましては、33ページと48ページのところです。これはいわゆる移住促進体制の強化をしようとする。そのためにはいろんなことが考えられるでしょうけど、例えば空き家の情報提供を含めて、移住プロモーション等々の事業が載せてあります。いかがでしょうか？

この事業には直接関わらないでしょうけど、今年、東北大震災で原発がああいう状況になって、電力を節約しなさいということになって、私も何回か東京に出張で行くことがあって、めちゃくちゃ暑かったです。今後もっともっと暑くなるだろうと。そういう時に、私の知人が何人か「北海道に1ヵ月ぐらいいれるところはないの？」と。「あるよ。北海道の網走には、てんとらんどという施設があって、空いているかどうかは分かりませんが」という話をしたことがあるんですけど。それに詳しい同僚に聞いたら、「生活用具とかを貸し出すシステムができていない」って言うので、「これはもったいない話だな」って話をしたところなんです。あれは道の施設なんですけど、例えば交流ということであれば、網走市が洗濯機とか電気釜とか、そういったものを常時置いて、貸し出すようなことがあれば、もっともっと交流が進むのではないかと。実際にそれを利用する人と現場で関わる人たちの意見をもう少し入れていくと、無駄なお金を使わなくて済むのかなと。

いかがでしょうか？ そういったご意見があれば？ この交流・移住事業は日本中あちこちの自治体がやっています。清里町なんかは相当力を入れて具体的にやっています。そういうのを参考にしながら進めた方がいいんじゃないかと。恐らく皆さんの方がそういう情報はたくさんご存じだろうから、そういう情報・意見を今後出していただけるようにして。いかがですか？

次の、圏域マネジメント能力の強化に係る具体的取組ということで人材の育成。ここは大変重要なところですけども。34ページと49ページのところです。各分野の人材を育てる。そのために研修機会を設けたり。ここでは農大のやっている地域創生塾といったものもある訳でして、これは農大がJSTという科学技術振興機構からお金をいただいて、やっている事業なんですけど。これは始まって3年目に入ったところで、まだ具体的な成果は出ていませんけど、段々人材は育てているという状況です。ただ、この部分に関して言えば、ものづくりだと誤解を受けているところがあって、ものづくりは確かにしているんですけど、ものづくりを通した人材を育成するということでもあります。商品開発ができるんだと誤解してくる塾生

が中にはいるんですけども。ここは予算がゼロですけど、こういったところも本当はもう少しね。今後は考えていかなければいけないと思います。

後は、圏域内の市町職員の交流を通して、お互いの資質を高め合っていくということだろうと思います。合同研修会といったようなことを通して、圏域の職員間交流が促進されていって、効果的に職員の能力と資質が向上していくんだということでもあります。これに対して予算は、網走市と大空町のという意味ですか？

【事務局】現在は、それぞれの市町がやっている研修事業です。

【座長】いかがでしょうか？この辺り、ご意見は？

一応、ここまでで圏域の具体的取組について一通り終わりましたが、12ページから17ページまで、新たに圏域の現状と課題ということで、加筆されております。新たに付け加えた文脈がありますので、これに関してそれぞれの関連する分野の方でなくて結構ですので、それぞれお気付きの点がありましたら、ご意見をいただきたいと思っております。

委員さん、広域観光はいっぱい組織がありますよね？観光協会は当然ありますし、オホーツク圏観光連盟とか、それがどうもうまく連携しているのか、していないのかよく見えないんですが、現状はいかがですか？

【委員】座長がおっしゃるように、地域には観光協会がありますしね。その管内の組織もあるし、それからひがし北海道もあります。例えば管内の観光連盟は、観光協会が加盟している組織ですよ。ひがし北海道は、また別に組織があり、これはどこの系列でもないんです。ひがし北海道観光開発推進協議会は元々ホテルが中心になって作った組織で、独自にプロモーションをやっているんですね。系列が、札幌にある北海道観光振興機構の下部組織でもないんです。

管内の観光連盟は、また北海道観光振興機構の下部組織かということ、そうでもない。その辺の連携というか組織立ったものが、はっきりしたものがないんですよ。言われれば、それぞれやるというような。確かに機能はしていない面もあるかもしれません。

【座長】言いづらいところを説明していただきまして、ありがとうございます。私も、前からあって、もの凄い活発に動いているのかと思っていたんですけど、それぞれが同じようなことをやっていて、一緒にやっていないような感じがありますね。私はどうも観光だけでなく、その他の分野でもそういうことがあり得るんでないかと。本当はそういうことを是正するための共生ビジョンを作ると。無駄なと言ったらおかしいですけど。せつかく皆さん一生懸命やっているんですけどね。例えば公共交通の問題にしても、いくつかの組織・団体とかがあるんだけど、何かうまく折り合っていないところがあって、もったいないエネルギーが費やされているような気がします。ここら辺りは、大きな根本・課題だろうと私は思っています。福祉にしても、医療にしても、そこら辺りが大きな課題だと思います。

要するに、誰も不真面目にはやっていない。真面目にやる。それでお金もそれなりに一生懸命工面してなんとかしている。それでこういう言い方したら大変怒られるかもしれないけど、全てがもの凄く無駄な状況になっているような気がしてしょうがないんです。どうなんでしょうね、そこらは？深川さん、どうですか？

【委員】観光分野ですと委員がおっしゃる通りで、それぞれ個々ではそれなりに皆さん真剣にやっているんですけど。非常に言い方が悪いんですが、個性が強い団体でございますので、なかなか協調できる部分が限られてくる。それが一番必要なことなんです。東藻琴の場合は、観光と言いましても殆んどないに等しいというか、あくまでもうちらは造る観光と自負しております。網走さんとか阿寒なんかでは、自然を守る観光という、東藻琴とのギャップが凄い。自由に開発できる観光と、何としても守らなきゃならない観光というのは、捉え方も違う。その辺をうまく共存共栄していくような大きなビジョンがあって、リーダーシップをとってくれるところがあれば、追随していけることがあります。ですから私の個人的な意見ですが、網走と紋別を含めて網走市の観光協会が、できればリーダーシップをとって、大きくビジョンを捉えてくれると、そこに100%とはいかなくても、50なり60なり追随していける。それにできるかできないかは別として、交通機関なんかも厚くしていく。当然事故とかも出てきますから、その辺はやはり医療体制がきちっとしているということは、来る方々にも安心ができるし、定住してもらおう仕掛け、その辺はニセコなんかを見習うと非常にいいのかなと感じます。

【委員】前回、出席できませんで申し訳ありません。観光協会としての立場から言いますと、「観光協会は何をやっているんだ？」となると、どうしてもイベント関係の事業の消化とか、各管内の観光協会との連携をしながら地域をアピールしていくというのが、今基本的な行動であります。ただ私としては、観光と捉えると、やはり交通機関も当然関係しますし、せつかく来てもらった人に地場のものを売っていく姿勢も大事だし、特に定住なども。私も定住の会議のメンバーに入っているんですけど、大空町役場の場合、総務課が定住を担当している。観光は産業課が担当しているということで。一番大事なことは、横を刺す考え方で、本当にそこに住む人、来た人のために如何に交通機関を維持するか。観光も如何に地元の付加価値を高めるために行動するかということをやっていく。いろいろなところの事例なども自分たちも勉強する暇もないというか、日々の事にどうしても追われるものですから、そういう意味ではこのような会議の中で、行政の方に調べてもらう。また、それがこの地域にどれだけ対応できるかということも協議していく方向を見出せば、網走市と大空町が女満別空港という拠点を持ちながら進めていく方向でないかなと考えております。

【座長】ありがとうございました。広域観光という観点から、観光の関係の方々にお話をいただきました。その他の分野でも結構です。いかがでしょうか？

続いて、圏域の将来像というところですが、17ページになります。一番最初に提示されていたのが黒い字で、その間に加筆された部分が付け加えられたということで。前回の会議の時に、もうちょっと夢のある、ロマンのある中身にしたらどうかというご意見もありまして。「夢のある」加筆をしていただいたということなんですけど、いかがでしょうか？

やっぱりこの辺は本当に自然と歴史ですよ。歴史が浅いと北海道の方はおっしゃいますけど、豊かな自然、それから歴史。やはり風土的な了解がきちつとなされた場所だと、私も理解しております。そういう意味では、この部分の風土の捉え方は良いのではないかと、私は思っておりますけど。

【委員】私も名古屋から34歳の時にこちらに来て25年になります。住んでみて一番感じていることは、やはりこれから定住される方も含めてですが、雇用というか生活の糧が確立されていないことには、自然も風土も全てのことが無に等しいというか。ですから雇用の場を作るにはどうしたら良いかというのが、定住に関しては特に重要ではないだろうか、昨今つくづく思います。

あと、仕事柄とか趣味をいろいろやっているんですが、日本国中1年に3回ぐらい回っているんですが、これほど住み良い自然豊かなところはないというのが実感です。生活の糧がしっかりしているという前提であれば、日本一網走は住みやすいところだと思います。

【座長】ありがとうございました。私も先日、農大の卒業生と東京の山手線の中で偶然ばったり会って、「網走に帰りたい」と言われました。出身は東京の人間なんですけど、「網走に帰りたい」という言い方をしていましたね。「お前の家は東京じゃないか」と言ったら、「いや、網走が懐かしくてしょうがない」と。だから帰れるために、一生懸命自分で何か手に技術をつけて。彼の場合は、食べ物屋さんをやるために帰ってくる。というよりも、ここに帰って来たいために、喰う手立てを自分で考えているんだということ。「生活できますかね？」と聞かれたりしたんですけど。最近段々その手のものが増えてきて、「どうなんだろう？マーケティングした方が良いんじゃないか」と言ったんですけど。まさに素晴らしい環境で、誰でも住みたくなる地域なのに、仕事がなくてなかなか生活が成り立たない。そういうような状況は、今後の交流とか定住を考える時には重要になります。いざ仕事が見つかった、雇用が何とか確保された時に、勤め先までバスがないとかですね、車があるから良いんじゃないか、だけど生活の全般の中で、家族が車をどうしても使えない、若しくは公共交通機関に頼らざるを得ないってことが出てくる。

観光にしてもそうですね。やっぱり素晴らしい。私は斜里町で、知床はもの凄く人が、段々減ってはいるんですけど。ウトロの診療所のお医者さんが言うんですけど、「とにかく大変だ」と。ウトロさんは人数が1,500人ぐらいしかいないんですけど、



観光シーズンになると何万人という患者（観光客）。それは大体熱を出したりとかですね。ホテルとか旅館から夜中に電話がかかってきて、対応もどうしようもなく、大変申し訳ないんですけど網走厚生病院まで運んでもらうとかですね。そんなんで安直に手に負えなくなるから受け入れてくれというのは、片一方の病院も大変だろうと。そういう意味ではシステムということをきちんと考えていかないと。先ほど藤永先生がおっしゃったように、8月頃にそういった連携の形というのが、完成とは言わないにしても、一応システムとして整ってくる。そういったようなことを一つひとつ、どの分野でも作り上げていかなければならないだろうと思います。医療だけじゃなくて。交通にしても観光にしても。何か組織があるけど連携がとれていない。もっとシンプルに結集する仕組みが、このビジョンで今後作られていくようにしていかなければいけない。

いかがでしょうか？他にご意見等はございませんか？今までのこと、全体を通してこれだけはどういうことがありましたら、いかがでしょうか？このことに関わらなくても結構です。一応この3回目で終わりになりますけど、終わりでなくて、10月にもありますけど。今度はもう少し工夫した形のものをやらないと、本心での議論ができないんじゃないかという感じがして。その辺は皆さんのお知恵をいただきながら、10月若しくは来年の4月に進めていきたいなと考えていますけれど。

【委員】今回、課題も書いていただきまして、大変分かりやすくなったのではないかと思います。事務局の皆さん、どうもご苦労さまでした。

1点だけですね、産業振興分野で、16ページに網走湖が唐突に出てくるんですよ。事業ありきから始まっているから、結論から来ているから、事務局の方大変辛いと思うんですけど、もうちょっとつながると読みやすいかなと気がいたしましたので。あと一つだけいいですか？課題になるのか将来像になるのか分からないんですけど。私も網走の人間じゃないけど（道内ですけど）も、非常に思うのは、網走は4万人ぐらいの町で、日本中の津々浦々の人が知っている地名というのは、超スーパー有名地名ですよ。前に東藻琴の人と話したら、「場所を分かってもらうのが大変なんだ」と。

「網走のちよつとこの辺にある」と言ったら、「ああそうかい」と言われると話を聞きましてね。それが実は本州の方へ行って、30代より若い人が、かなり知らない人が最近増えているんですよ。網走って地名を知らない。映画も知らない。そういうことを考えた時に、網走の地名の認知度を維持していく努力というのは、どこかに要るのかなという気がしますよね。普段は気が付かないんですけど、よそ者の目で見ると、非常によく感じます。

【座長】ありがとうございました。いかがでしょうか？

【委員】観光に関してなんですけど。私も網走に来て9年目になるんですが、私は九州出身なんですよ。網走を日本中に有名にした高倉健さんと同郷で、その網走監

獄に憧れて来た訳ではないんですけど。そういうことから言うと、今言われたように本州の方の会議に行きますと、網走の病院長と言うと、本当にみんなご存じなんですよ。ただ稚内と網走で、どっちが稚内でどっちが網走か分からない人もいるんですけども、大体あの辺に網走があるということをご存じで。そういうことから言うと、今小林さんが言われたことは、まさにその通りで、これからは段々すたれていくかもしれないということ。

私がこの網走に来て一番感じたことは、まず女満別から入ってきて網走湖を見た時に、水が汚いのは後で分かったんですが、素晴らしい湖で、だけど湖水に誰もいないんですね。それから女満別へ往復する度によく見ると、時々網走湖荘の横にヨットを浮かべていますよね。ヨットに乗る人がいるんだと思ったら、あれは観光用に季節的に置くだけで。網走湖を、漁業では利用しているんですけど、生活の中で利用しているというのが全く見られないんですね。一つは利用するだけの人間がいない。昔は網走市役所のボート部は凄く有名だったとかあるんですが、あの湖自体が生活の中からはちょっとずれちゃっている。観光からもはずれている感じですね。

私が思うのは、網走川の西小学校の裏辺りに堰か何かあって、サケを止めて捕っていますよね。僕は秋になると年に2回ぐらい見に行くんですが、あれはもう驚愕するような風景なんですよ。あそこでサケがどんどん飛び跳ねて、飛び跳ねているのを見るだけでも素晴らしかったんですけど。ある時、休みの日に（日常はやっているということなんですけど）漁船が入ってきて、堰を乗り越えて、網でサケをすくって持って行くんですね。僕は、これを知っている人は、網走市民でもあんまりいないんじゃないかと。ここに観光バスを運ばせて来ると、あの姿を見ただけで、リピーターでも出てきそうな観光だと思うんです。

今の斜網地区の観光は、ただ自然を見せて通り過ぎるだけの観光。そうするとリピーターの数も限られてくる。その中で観光客を引き留めるためには、日常生活している自然を見せるというのも一つの手でないかと思うんですね。農家や酪農の方が口蹄疫とかあって、部外者が農場に入るのを大変嫌うというのは聞いてはいますけれど、例えば、広大な大地でトラクターがビートを採って、北海道のトラクターは本州と全然規模の違う大型ですから、生活している風景を観光として見せる。網走川のサケを集めて捕っている姿を見せるということも、自然に溶け込んだ生活を見せるということも、観光の中には入ると思うんですよ。そういうのを全部シャットアウトして、ただ通り過ぎる観光だけで、観光客が来ないと言うよりは、もっと打って出るという格好の観光地開拓を目指したらどうかなと、私も今ずーと思っていたんですけども。

【座長】ありがとうございました。最近また新たな第三の観光と言われるようなグリーンツーリズム。グリーンツーリズムですか、いろんな言い方をしますけれど。そういう意味では、藤永先生がおっしゃったように、せっかくある資源ですから、それ

が殆んど見られていない訳ですから、今のような例だけじゃなくて、一般道路もそれが発掘されて段々スポットになっているところが随分あって。私も事務局の山本さんに教えてもらって、桜の大木を見てびっくりして、それまでは誰も行かないという。そういうのは双方向の情報があるから、そういうのが出てくるんじゃないかと。情報の対称性というのを意識しながら、こういったビジョンを作っていくことが重要かなと思います。他にいかがでしょうか？

予定していた時間になりましたので。第1回目から、私の進行の仕方、それからビジョンに対する理解の仕方がちょっと間違った部分もありまして、非常に皆さんにご迷惑をおかけした部分があると思いますけれども、予定されていた第3回をこれで終わりになります。それで予定していたこのビジョンの全体の検討も、各委員の皆さんからご意見をいただきながら、今年度につきましては、これを基に作成していくと。今日出していただいたご意見も加えながら整理をして、共生ビジョンを作成していきたいということです。

本当にご協力ありがとうございました。お疲れさまでございました。

**【副座長】**今最後に委員がおっしゃった観光に関するヒントですとか。私も60歳近くになりますけれども、学生時代に4年間だけ東京の方に離れておりましたけれども、後はずっと網走に住んでおります。昔からこの網走は非常恵まれている土地だなと思いつつ住んでおりました。最初に東京に行った時には、かなりのマンモス校に行っていたんですけど、「網走」と言っただけで、本当にみんなが分かってくれて、非常に得をした想いがあります。

卒業して帰ってきてからも、北海道の中でも道東はいろんな面で優勢があって、たまに他の地域に行くと、網走は恵まれているなということ、常々感じながら生活してきましたけれども、残念ながらこの10年、やはり網走も遅ればせながらと言いますか、商店街もそれまでシャッターなんて下がっていなかったんですけど、他の街のように、近年あつという間に4条通が衰退していった。最後の砦のラルズがなくなってから本当に…。銀行が開いている内は人が回遊しておりますけれども、銀行が閉まっちゃうと、4条通を歩かない。20年ぐらい前、銀行が邪魔だと言われていた時代もあったんですね。4条通の商店街にお店を出すというのが、商売をやっている人たちの夢だった時代もあったんですけど。

そういった意味で、みんなが恵まれていた中で、あまり考えなかった面が、私を含めて網走も長く気付かされない面があったのかなと思います。今回こういう会議に参加する機会を得て、また皆さんの切り口の違う意見を聞きながら、これから自分のことだけを考えるんじゃなくて、みんなが交流して情報を共有しながら新しい時代に向かっていければなということでも考えましたので、お話をさせていただきました。

**【座長】**ありがとうございました。それでは事務局から。

【事務局】 皆さん、お疲れさまでした。冒頭でも申し上げましたとおり、今回までいただいた貴重なご意見を集約させていただいて、事務局で素案を取りまとめさせていただきたいと思っております。10月にまた、来年度以降に向けた取組等についてご意見等を伺いたいということでご案内いたしますので、よろしくお願いいたします。

本日の議事録につきましては、取りまとめ次第、委員の皆さんに送らせていただきますので、お手数をおかけしますが、お目を通しただいて、違っているところがありましたら、事務局の方までご連絡いただきたいと思います。

最後に連絡事項ですけれども、本日までの出席された委員さんの報酬につきまして、今回で一度精算させていただきたいと考えています。近々指定の口座に振り込みさせていただきたいと思っておりますので、大変遅くなりましたけれども、よろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。